

豊川市指定無形民俗文化財

う たり か ざ ま つ
菟足神社の風祭りガイド



御車の曳き出し



笹踊り



建物煙火

豊川市教育委員会

菟足神社の風祭りについて（豊川市指定無形民俗文化財、平成 27 年 2 月 10 日指定）

菟足神社の風祭りは、毎年 4 月第 2 金・土・日曜日に行われ、古来から人身御供の由来伝承を持つ生贄^{ひとみごくう いけにえ}を供える祭りとして知られ、『今昔物語』や『宇治拾遺物語』にある三河国の猪を生けながらおろす「風祭」が今に伝わるものとも言われています。御車^{だし}（山車）が街中を練り、煙火が夜空を彩り、多くの人で賑わう祭礼は、当地域を代表する春の風物詩です。祭礼は神社及び小坂井・平井・宿（坂地・中島を含む）の各地区の氏子によって執り行われ、煙火は祭礼奉賛団体の晃煙社（小坂井）、志組（宿）、彩光社（坂地）が行います。

神職らは 3 日間の祭礼の中で様々な神事を行い、浜下神事後の善福寺での海の贄である蛤^{はまぐり}による供応、山の贄である猪から雀に対象が変わったと伝えられる雀射初神事と雀射収神事^{すすめいそめ}、雀献供、農耕儀礼の田植神事など、祭礼の前半で海と山の狩猟、後半では狩猟と農耕を一体化した形が現れているところに特色があります。

氏子らは、小坂井と宿は御車（山車）を曳き、両者とも山車上で稚児舞・隠れ太鼓・獅子舞を行います。中島は巫女神楽の奉納、坂地は獅子舞（百足獅子^{むかで}）を行い、平井は本祭りで御鉾を先頭に笹踊り・笠鉾などの行列を組み神社へ参進します。胸に小さな鞆鼓^{かっこ}をつけて踊る稚児舞は、中世から近世初頭に流行した狂言などでも登場するハツ撥^{はち}と呼ばれる芸能で、三河では唯一残されたものです。御車（山車）上で行われる大太鼓（隠れ太鼓）・獅子舞・稚児舞は、かつて吉田の祇園祭りでも行われていたと考えられており、また大太鼓（隠れ太鼓）は近隣の牛久保八幡社や豊川進雄神社の祭礼で現在も行われています。笹踊りは大太鼓 1 人、小太鼓 2 人が踊る拍子物風流の芸能で、県内では東三河のみに分布します。これらは、吉田・牛久保・豊川の祭礼と状況がよく似ていますが、菟足神社の風祭りは近世以来の当社周辺地域における祭礼芸能の姿を総体的に今によく留めているといえます。

宵祭りに奉納される建物（立物）煙火は、江戸時代後期の文献によりかつて吉田で行われていたことが知られるなど、かつて三河地方の各所で行われた仕掛け煙火ですが、現在では新城市平井の八幡神社、額田郡幸田町荻の稲荷神社（中断中）、菟足神社の 3 箇所の祭礼に残されるのみです。

以上のとおり、菟足神社の風祭りは神事において海と山の狩猟、狩猟と農耕を一体化した形が現れていること、祭礼芸能に多くの要素がみられ、かつ近隣地域に伝わる祭礼芸能の姿を今によく留めていること、かつて三河地方の各所で行われた建物煙火を今に伝えることなど、祭礼全体を通して地域の風土と民俗の特質がよく現れています。

【凡例】

- 一、本ガイドは、菟足神社の風祭りの見学の手引きとして作成したものです。本文中にある行事の開始時間等については、例年の状況を参考としたものであり、変更すること考えられますのでご了承下さい。
- 一、本ガイドの写真は、平成 25・26 年の祭礼を撮影したものです。
- 一、本ガイドの編集は、豊川市教育委員会生涯学習課文化財係が行いました。

祭り初日（金曜日）

■^{はまおり}浜下神事（午後3時）

御分霊を奉じ行列を整え菟足神社を出発し、途中祭神由緒地の柏木浜に寄り輪注連を収め、平井の豊川放水路畔に向います。放水路畔に到着後、御分霊の鉾を挿し立て、その根元にミソバを二枚敷き、白酒を注ぎ、^{こり}垢離取りの^{のり}祝詞を奏上します。次いで神職の一人が^{のり}神の祓い串を持つ総代と共に、新橋中央で禊祓いの詞を奏し、祓い串で川面を祓い川の中に投じます。

浜下神事が終わると、一同は善福寺へ向い、宮司は御分霊の鉾を境内の菟足祠に立てかけます。祝詞を奏上後、持参した白酒で献酒を戴き、^{ゆではまぐり}茹 蛤^{すすめいそめ}による平井の供応を受けます。その後、^{すすめいそめ}雀射初神事の奉仕者の帰りを待ち、再び行列を組んで神社へ帰ります。



平井に向かう行列



垢離取りの祝詞奏上



善福寺での供応

■^{すすめいそめ}雀射初神事

浜下神事が終わると、弓矢を持った神職は総代と共に、豊橋市日色野町の菱木野天神社に向かいます。神社到着後に祝詞を奏上し、その後境内において矢を二本放つ雀射初神事が行われます。この神事は、祭り三日目の本祭りの雀献供で供える雀の獲り始めの儀式であり、かつては生きた雀を射ていたということですが、やがて鳥形に変わり現在では空を射ています。神事終了後には、子供らが参加する賽銭投げが行われます。



雀射初神事



祭り二日目（土曜日）

■すすめ い おさめ 雀射収神事（午前9時）

祭り三日目の本祭りで供える雀の獲り収めの神事で、字倉屋敷の若宮八幡社で行われます。神職らが行列を整え菟足神社を出発して若宮八幡社へ向かい、到着後、雀射初神事と同様に矢を二本放つ神事が行われます。



若宮八幡社に向かう行列



雀射収神事

■若宮社祭典（午前10時）

本祭りの神輿渡御の御旅所でもある若宮社の祭典です。神職らが行列を整え菟足神社を出発し、太鼓を打ち鳴らして若宮社へ向かいます。到着後、天津祝詞を奏上し、神饌を供えます。



若宮社に向かう行列



若宮社祭典

■試楽祭（午後1時）

＜式典と式煙火＞

拝殿に小坂井区長と年行司が昇殿し、神前に手筒二本、玉火二本を供えます。神事後、拝殿前の神庭ではじめに小年行司二人が玉火を打ち揚げ、続いて手筒二本の奉納が行われます。



玉火の奉納

＜中島の巫女神楽＞

式煙火終了と同時に、神楽殿に控える中島の巫女神楽が、奏楽・舞を始めます。二人の神子が、白い着物に緋袴を着用し天冠を着け、手に鈴と扇を持って舞います。数曲舞っては休み、時には舞い手が交代しながら夕方まで続けられます。



巫女神楽

コラム

中島地区は江戸時代に獅子神楽で知られた地であり、各地で神楽を奉納した神楽師たちが多くいました。しかし、明治維新による社会の変革により継続が難しくなり、明治時代末期に行われなくなっていました。現在行われている巫女神楽が、獅子神楽と一緒に行われていたのかは分かりませんが、かつての小坂井神楽の名残りを留めているのかもしれません。一ノ鳥居の左右には、文化元年（1804）年に宿村の神楽師により奉納された二基の石灯籠があり、往時を偲ばせます。

＜御車（山車）上での芸能＞

二ノ鳥居前に置かれた小坂井の御車（山車）上では、式煙火の始まりと同時に囃子が奏され、稚児舞・大太鼓（隠れ太鼓）・獅子舞が奉納されます。稚児舞は山車上の中央で行われるため、下からではほとんど見ることはできません。稚児は二人で、頭に天冠、胸には小さな^{かつこ}羯鼓（太鼓）を着けるもので、中世から近世初頭に流行した狂言などにも登場するハツ撥と呼ばれる芸能であり、三河で唯一残るものです。大太鼓（隠れ太鼓）は、唐子衣装に笠を着け、赤い布で鼻から下を隠した大太鼓と呼ばれる役者が、囃子にあわせて太鼓を叩くもので、豊川進雄神社や牛久保八幡社の祭礼でも行われています。獅子舞は子供の獅子二頭と大人の大太鼓の三人で行われるもので、大太鼓が獅子の後頭部を持ち、人形振りのように左右へ頭を振る所作を行います。宿も小坂井と同じ芸能を行い、会所前に置かれた山車上で、試楽祭開始の号砲を合図に囃子が奏され、舞が奉納されます。



大太鼓（隠れ太鼓）



獅子舞

＜御車（山車）の曳き出し＞

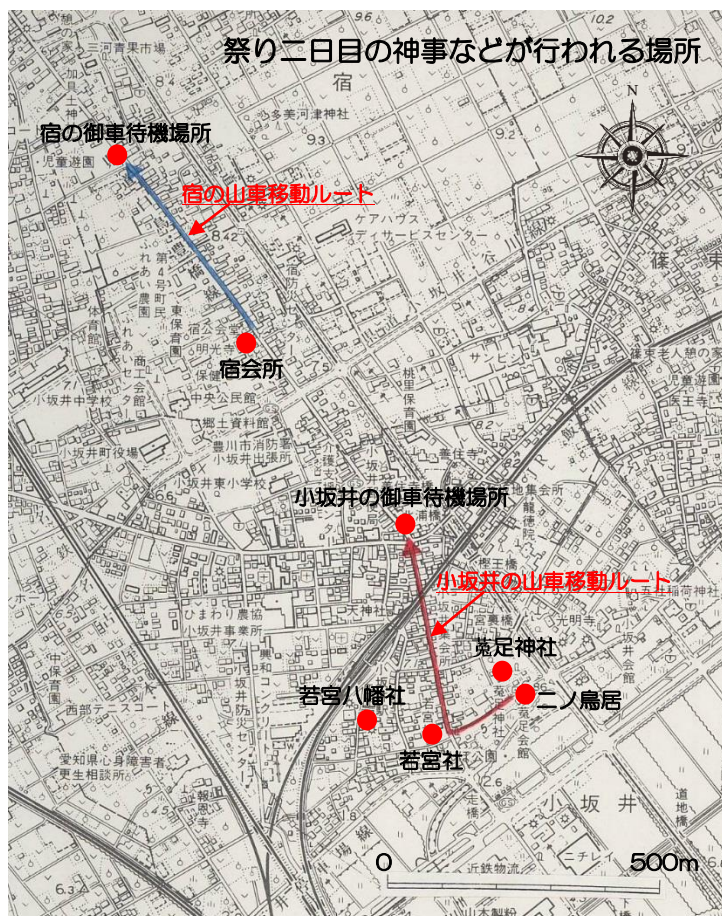
小坂井の御車は、舞の奉納後、二ノ鳥居前から曳き出され、旧東海道を北へ向かいます。小坂井の会所近くで一旦停止し、提灯に火を入れ、車上より若宮社を遥拝し、囃子を奏し、舞を奉納します。その後再び御車は曳き出され、字境の秋葉社前に止め置かれ、街道上で一夜を過ごします。宿の御車も、舞の奉納後、旧東海道を北へ字境（スーパーアツミ前）まで曳き出され、そこに一晩止め置かれます。



小坂井の御車の曳き出し



宿の御車の曳き出し



■小坂井煙火

＜昼の部＞（午後3時から）

かつては小坂井の昼煙火として知られ、五色の模様や国旗、幟の袋物、日傘、果ては生きた鳩を玉に入れて打ち上げられたものです。現在では、雷を中心に色物、煙物の昼打ちが数多く打ち上げられ、往時を偲ばせています。

＜夜の部＞（午後7時から）

打上煙火、仕掛煙火、スターマインなど多くの煙火が夜空を彩ります。



打上煙火



仕掛煙火



スターマイン

◎建物煙火

建物（立物）煙火は、高い柱を立て、そこに取り付けられた枠などに綱火で点火して、絵や文字などを浮かび上がらせる仕掛煙火です。かつては三河の各地でみられたものですが、現在では、菟足神社と新城市平井の八幡神社、額田郡幸田町荻の稻荷神社（中断中）の祭礼に残されるのみです。菟足神社は二段返しの仕掛けで、その題材は毎年工夫して創作されています。

◎手筒・大筒煙火

小坂井の晃煙社、宿の志組、坂地の彩光社の三組の煙火奉賛団体が行います。煙火の製法・上げ方は概ね各組とも同じですが、細かいところで違いも見られます。



建物煙火



手筒煙火



大筒

祭り三日目（日曜日）

■社式の受取り（午前6時）

小坂井・平井・宿の役の人が、神社に社式を受取りに来ます。
小坂井・宿は御車に、平井は御鉾に社式を掲げます。

■本社式典（午前 10 時）

県神社庁より献幣使を迎え関係者参列の上、宮司が斎主となり、例大祭の式典が本社御神前にて執り行われます。式典では、中島の巫女神楽を奉納します。

■田植神事と雀献供（午後1時）

この行事は田植神事と呼ばれ、江戸時代までは 12 株の苗を植えていましたが、現在は粃播きをします。神職らは行列を整え菟足神社を出発し、神社南のトンボ公園脇の神田へ向かいます。到着後、皆で天津祝詞を奉唱し、櫛の祓い串を持つ神職は、田の面を祓い、櫛を畦に挿し立てます。次に斎主神職は畦に下り、四方に廻り種粃を播き、この時まで傍らに控え緩いテンポで打っていた太鼓方は、カー杯太鼓を乱打します。

神前に控える宮司は、遥かにこれを聞くと神饌所の戸棚から雀 12 羽を取り出し、白酒と醴（甘酒の素）と共に雀を神前に供えて、祝詞を奏上します。これは古来宮司家の秘事であり他見は許されないものです。

■御車（山車）の曳き出し（午後1時）

昨夜、街道上に置かれていた小坂井と宿の御車は、朝から入念に飾り付けられ、午後1時に菟足神社に向けて出発します。道中では警固役の年行司が御車に付き添い、若衆は「ヤッショ、ヤッショ」の掛け声で御車を曳きます。途中の JR 飯田線の踏切では、架線が御車の屋根よりも低い位置にあるため、踏切通過の際には屋根を下げます。小坂井の御車は一ノ鳥居前で参道に入りますが、この狭い場所で梶棒を使い方向転換する作業は、祭りの見どころの一つと言えるでしょう。その後小坂井の御車は、午後4時頃に二ノ鳥居前に到着します。宿の御車は字境の秋葉社前で「曲尺手^{かねんて}」の曲を奏し、午後3時40分頃に一ノ鳥居前に到着します。



本社式典



神田に向かう行列



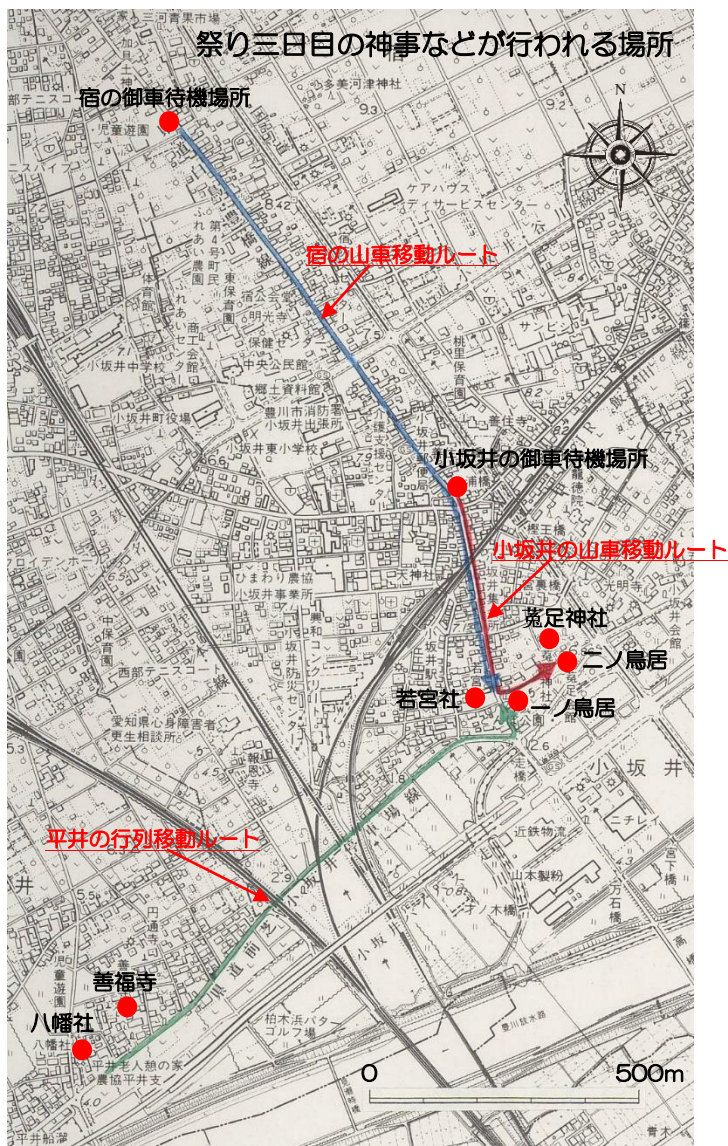
種粃播き



小坂井の御車の曳き出し



宿の御車の曳き出し



小坂井の御車の駒

コラム

風祭りで使用される二輛の御車の製作時期などの由来についてはよく分かりませんが、小坂井の御車の駒（車輪）をよく見ると銘文が刻まれています。「寛政三辛亥年四月吉日願主村中」は御車の製作時期を示す可能性があり、「大正十四乙丑年四月豊鉄電化昇降装置取付大改修」からは、飯田線の電化により御車の二層目を昇降できるように改修したことが分かります。

■坂地の獅子舞

坂地の獅子舞は若衆が油^ゆ単^{たん}につかまって走り回る百足獅子で、豊橋市大村から伝えられたといい、また大村の獅子舞は豊橋市賀茂町の賀茂神社から伝えられたといえます。しかし、賀茂神社では獅子が境内から外に出ることはなく、氏子町内を走り回る坂地と大村の獅子舞は、賀茂神社の獅子舞を学んだ後に変容したものと思われます。坂地の獅子舞は昼頃に会所を出発し、坂地地区を回った後、街道を練りながら柏木浜に向かいます。そこで平井の御鉾の出発を見届けると菟足神社へ向かい、午後3時に一ノ鳥居に到着し、鳥居に張られた注連縄をくわえて切り取ります。その後、参道を進んで二ノ鳥居をくぐり拝殿に練り込みます。



一ノ鳥居到着



参道の獅子舞



獅子舞の拝殿練り込み

■平井の行列と神社参進（午後3時）

平井では朝から御鉾・大注連縄作りが行われ、御鉾は昼前には善福寺正面の豊川放水路堤上の鉾殿岸と呼ばれる場所に立てられます。そして午後3時に、善福寺境内にある^{ならすのうめ}不生梅及び八幡社・秋葉社の前で^{かきほこ}箆踊りを行った後、平井の一行は御鉾をさげ奉って菟足神社に向かって行列を組んで出発します。この行列は大槲を先頭に、御鉾・箆踊り・^{かきほこ}笠鉾（楠正成・弁慶・坂田金時・加藤清正の人形を飾った車）・大注連縄・祭礼関係者が長蛇の列をなして、県道を菟足神社に向かいます。行列は、午後4時に一ノ鳥居に到着し、青竹に縛り担いできた大注連縄を鳥居の奉納台にかけ参道へ進みます。御鉾は参道の宮司家の前からは立てて移動され、拝殿の前に取り付けられます。その後平井の一行は、箆踊りを先頭に二ノ鳥居をくぐり神庭を三周して外に出ます。



行列の御鉾



行列の笠鉾



大注連縄奉懸



御鉾の移動



箆踊り



箆踊り、笠鉾、囃し方の参進

■神輿渡御（午後5時）

平井の一行が神庭を去ると拝殿の幕が下ろされ、宮司は御神霊を神輿に遷します。そして神庭で行列を組み、楽士の奏する雅楽の音と共に荘厳な雰囲気漂わせ、若宮社への神輿渡御が出発します。若宮社前の御旅所に到着後、神輿は神輿台に安置され、その後神職らによる祝詞の奏上や中島の巫女神楽の奉納などの儀式が執り行われます。儀式が終了すると再び行列が組まれ、一行は菟足神社に戻りますが、この時に宿と小坂井の御車の上では、御還幸を迎えて稚児舞・獅子舞が奉納されます。そして拝殿到着後、宮司が御神霊を本殿に遷し祭儀の全てが終了し、中島の巫女は神楽殿で舞納めの神楽を奉納します。



神輿渡御



御旅所での祝詞奏上



御旅所での中島の巫女神楽の奉納

菟足神社の風祭りの参考文献

- 鬼頭秀明 2014 年 「愛知県の民俗芸能概説」 『愛知県の民俗芸能 ー愛知県民俗芸能緊急調査報告書ー』 愛知県教育委員会
- 鬼頭秀明 2003 年 「東三河における祭礼風流の諸相 ー神幸祭と風流ー」 『愛知県史民俗調査報告書6 渥美・東三河』 愛知県総務部総務課県史編さん室
- 小田金一 2001 年 「菟足神社の風まつり」 『あいちの祭り行事 ーあいちの祭り行事調査事業報告書』 愛知県教育委員会
- 三田村佳子 1996 年 「境界神事としての生贄祭 ー三河国菟足神社の風祭ー」 『神道宗教』 第百六十二号 神道宗教学会
- 山本宏務 1985 年 『山本宏務写真集 菟足神社風祭り田祭り』
- 愛知県史編さん委員会 2005 年 『愛知県史 別編 民俗3 三河』
- 小坂井町 1976 年 『小坂井町誌』

豊川市指定無形民俗文化財

菟足神社の風祭りガイド

平成27年2月

編集・発行 豊川市教育委員会生涯学習課

〒441-0292 愛知県豊川市赤坂町松本 250 番地

TEL0533-88-8035 FAX0533-88-8038

E-mail gakushu@city.toyokawa.lg.jp